別添

入賞作品詳細

1　大府市（担当：企画広報戦略課　電話番号：0562-45-6214）

部門	賞	作品名
広報紙 （市部）	入選	『広報おおぶ』（2023 年 12 月号）

審査講評（公益社団法人日本広報協会）

特集は　教育の昔と今の比較をしておりおもしろい。新しい教育システムの道具をうまく紹介している。一定以上の年齢の読者には、現在の教育状況がわかって意義があると言えよう。

最近の学校現場は、こんなに変わってきたのかということがよく分かる。単にＩＣＴだけでなく、道徳・ＳＤＧｓ・バイオリン・英語学習等々。また学校教育の担い手は教員だけでなく、地域の力や民間委託など、多様な力が子どもの未来を創るために参画・協働しているという構成と展開に説得力がある。このまちの子どもの成長が楽しみになる特集だ。

○『広報おおぶ』（2023 年 12 月号）大府市

○掲載意図（大府市）

■特集「学校現場の昔と今に迫る」

これまでの数々の学校現場への取材の中で学校の変化を感じていたことから、学校の変革に迫る特集を企画しました。変革の背景には何があり、子どもたちの学びの現場は今どうなっているのか、また学校の今後の役割は何かについて、学校現場の昔と今に迫り、子どもたちのこれからの未来について考えた特集です。

■特集「2023 年の振り返り」

2023 年の振り返りを週刊誌風に仕上げました。家庭で保存ができるよう、ページを紙面中央に配置しました。

■私の WorkStyle・広報クイズ＆アンケート

読者と地元事業者ウィン・ウィンのプレゼント企画。令和３年１月からこのコーナーを始め、アンケート結果に基づく特集をすることもあります。

２　東浦町（担当：住民自治課　電話番号：0562-83-3111）

部門	賞	作品名
広報紙 （町村部）	入選	『広報ひがしうら』（2023 年 10 月号）

審査講評（公益社団法人日本広報協会）

特集テーマ「ここが私のヨリドコロ」は、いろいろな人とその拠り所を紹介している長編企画。居場所を主催する担当者の活動意図を伝え、情報を分かりやすく編集しており、住民の共感を呼ぶ紙面であろう。また、笑顔の写真を多彩に使った表現構成が、住民の目を引く紙面となっている。

居場所づくりを考える記事内容はとても重要だと感じる。アフターコロナで、再び、さまざまな人たちに地域でのつながりを取り戻していくことが自治体の重要な課題になっている。「居場所」へ踏み出すはじめの一歩、という特集意図に好感が持てる。

ＱＲコードも的確に配置されている。

○『広報ひがしうら』（2023 年 10 月号）東浦町

○掲載意図（東浦町）

今年度の特集は「コロナの行動制限が解除された今、住民の興味をそそるテーマは何だろう」という視点から考えました。外出するきっかけや人とのつながりをつくりたいと思っているけれど、なかなか行動できない人が多くいると仮説を立て、「まずは、東浦町内の居場所に足を運ぶことで、人とのつながりをつくるきっかけになれば」とこの特集を企画しました。

町内施設を利用している方に、利用のきっかけを取材してみると「知り合いが利用していたから」という声が多く聞かれました。そこで、ただ行政目線のイチオシポイントを広報紙に掲載するだけでは、初めての場所に行く一歩を踏み出す勇気を出すことは難しいと考え、居場所の写真や利用したきっかけ、利用してみて自分自身がどのように変化したかをインタビューし、居場所を利用している住民が、まだ利用したことがない住民に向けてリアルな声を紹介していく構成にしました。

また、広報紙をパラパラめくって読む方にも目をとめてもらえるよう、導入部分（３ページ）の見出しに共感を得られそうな言葉を大きく掲載したところも工夫したポイントです。

３　蒲郡市（担当：秘書広報課　電話番号：0533-66-1145）

部門	賞	作品名
広報写真 （組み写真部）	入選	『広報がまごおり』（2023 年９月号 表紙＋裏表紙）

審査講評（公益社団法人日本広報協会）

花火の写真は実に見事で美しく、雄大さが伝わってくる。人物の切り抜き配置のバランスも動きがあってアクセントになっている。楽しさと美しさ、華やかさが色々表現されているページになった。

花火は事前の場所の選定に始まり、撮影に必要な高度な技術など、難易度が高い撮影の１つだ。昼間の明るい時間帯から夜までの長時間のロケは、体力や集中力などが問われる。そのような厳しい条件の中、誌面に散りばめられている写真の１つ１つは高いクオリティに仕上がっている。

華のある花火をしっかりと撮影できているのはどこが見せ場かわかっているというような安定感がある。

○『広報がまごおり』（2023 年 9 月号 表紙＋裏表紙）蒲郡市

○掲載意図（蒲郡市）

蒲郡市で１番大きな祭りである、蒲郡まつり。日中は、よさこいやダンスなどのパフォーマンスが行われます。よさこいの一糸乱れぬ舞からあふれ出る力強いパワー、ダンスのキラキラした輝き。にぎやかに祭りを盛り上げます。

まつりのフィナーレは納涼花火大会。目玉は、東京スカイツリーがすっぽり入るほど大きい、太平洋岸最大級の正三尺玉です。いつ見ても、「これぞ蒲郡の花火」と感じられる、大きさと美しさがあります。

祭りのにぎわいと花火の静かなる美しさを組み合わせ、それぞれを引き立てることで、蒲郡まつりの魅力を伝えたいと考えました。